

イー・ガーディアン

6050 東証 1 部

<http://www.e-guardian.co.jp/ir>

2016 年 12 月 19 日 (月)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
角田 秀夫

[企業情報はこちら >>>](#)

※ 1 パワーブレインは現在のリンク
スタイル (株)。

※ 2 デバッグ (debug) とは、コン
ピュータプログラムに潜む欠
陥を探し出して取り除くこと。

■ ゲームサポート事業がけん引し大幅増収増益。9 月に 東証 1 部指定

イー・ガーディアン <6050> は、SNS やソーシャルゲームの運営者向けに監視や顧客サポートなどのサービスを提供する IT ベンチャーである。1998 年にコンテンツプロバイダとして誕生し、インターネット業界の創成期に様々な新事業を手掛ける中で 2005 年に掲示板投稿監視事業に一本化し、イー・ガーディアン株式会社に商号変更した。2010 年に東証マザーズに上場してからは、ネット監視事業のイーオペ (株)、人材派遣業の (株) パワーブレイン※1、デバッグ事業※2 のトラネル (株)、HASH コンサルティング (株) などをグループ化し、事業領域を拡大してきた。現在は関連会社 6 社を含め全国に 5 都市 9 拠点、820 名の従業員を抱える企業グループである。2016 年 9 月に東証 1 部に昇格した。

主力事業は、ソーシャルサポート事業とゲームサポート事業である。ソーシャルサポート事業は、投稿掲示板やブログ・SNS などのコミュニティサイトなどを対象に監視・カスタマーサポート、運用、分析といった多種多様な業務を代行する。厳選された人材による監視サービス (有人監視) が基本であるが、その効率を上げるために専門特化した監視ツール (システム監視) も併用される。独自開発された AI (人工知能) システムにより低コストかつ高品質なサービス提供をする上で武器になっている。

ゲームサポート事業は、オンラインゲームを運営するクライアントに対し、問い合わせ対応を始めとする運営をサポートするとともに、デバッグ等の周辺業務も請け負う。ゲームをリリースする前に行うデバッグ作業からリリース後の問い合わせ対応までをワンストップで提供できる体制を整え、他社との差別化を狙う。2016 年 9 月期に初めてソーシャルサポート事業の売上を抜き、同社最大のセグメントとなった (売上高 1,659 百万円)。

2016 年 9 月期通期の業績は、売上高が前年同期比 26.3% 増の 3,813 百万円、営業利益が同 71.2% 増の 562 百万円、経常利益が同 58.4% 増の 554 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 82.4% 増の 350 百万円になり、過去最高の売上高と各利益を達成した。2 年連続で 20% 超増収、50% 超増益となり成長軌道は確かなものとなっている。売上増の主な要因は、ゲームサポート事業が好調だったことである。ソーシャルサポート、アドプロセス、その他分野も増収だった。利益増に関しても、売上増加効果が大きく、各地のセンターの稼働率が高まり原価率が下がったこと主要因だ。

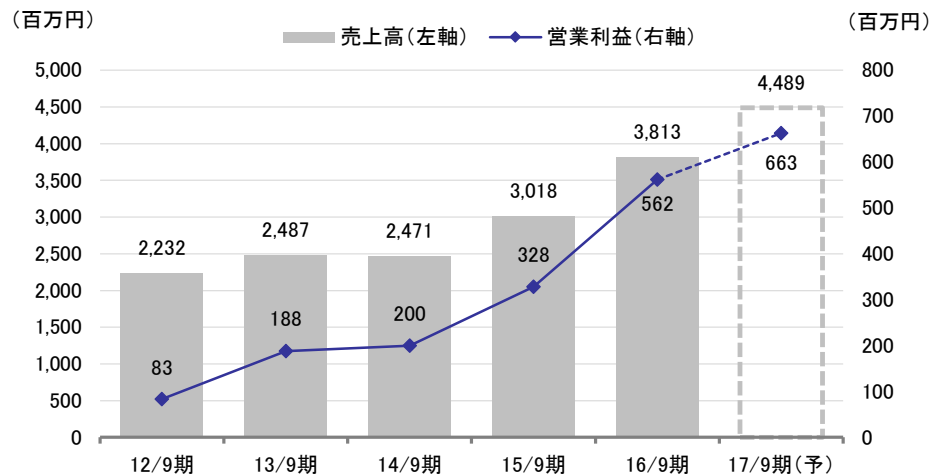
成長戦略は「総合ネットセキュリティ企業」へのステップアップである。新しいトピックとしては海外展開とデバッグ強化が挙げられる。海外展開は 2016 年 9 月期に大きく前進した。ベネッセホールディングス <9783> グループの (株) TMJ との協業によりフィリピンと中国に提携センターを設立し、稼働が開始された。事業内容は主にゲームサポート業務であり、最初のステップとしては、日本のゲーム会社の多言語対応を支援し、現地センターの稼働は順調に滑り出した。デバッグ強化に関しては、電子デバイスのデバッグを行う (株) アイティエスを買収することを発表した。同社グループではトラネルがゲームなどのアプリのデバッグ事業を行っているが、アイティエスが保有する電子デバイス (ハード) に対するデバッグのノウハウや顧客層を取り込むことで、デバッグ事業をさらに強化したい考えだ。

好調な利益成長を背景に、4 年連続の増配を行っており、2016 年 9 月期には配当金が年 4 円、配当性向 11.7%となった。2017 年 9 月期の配当予想は公表していないが、利益予想どおりの着地となれば増配となる。また、2016 年 9 月期に行われた 2 回の株式分割（2015 年 10 月 1 日付で普通株式 1 株につき 3 株の株式分割、2016 年 7 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の株式分割）により買いやすくなった。

Check Point

- ・ 2016 年 9 月に東証 1 部に昇格
- ・ 16/9 期は 2 年連続 20%超増収、50% 超増益、ゲームサポート事業が貢献
- ・ フィリピン・中国の海外拠点が順調に稼働開始
- ・ 電子デバイス（ハード）のデバッグ事業を M&A で獲得

通期業績の推移



会社概要

ネット監視事業最大手から総合ネットセキュリティ企業へ、2016 年東証 1 部に昇格

(1) 沿革と会社概要

同社は、1998 年にコンテンツプロバイダ事業を主とする IT ベンチャー（旧社名：株式会社ホットポット）として誕生した。インターネット業界の創成期に様々な新事業を手掛ける中で、2005 年に掲示板投稿監視事業に一本化しイー・ガーディアン株式会社に商号変更、その他の事業は売却している。2010 年に東証マザーズに上場してからは、ネット監視事業のイーオペを完全子会社化（2012 年）、人材派遣業のパワーブレインを完全子会社化（2014 年）、デバッグ事業のトラネルを会社分割（2014 年）、HASH コンサルティングを完全子会社化（2015 年）と、M&A 及び会社分割を行いながら、事業領域を拡大し、総合ネットセキュリティ企業に成長した。現在は関連会社 6 社、全国 5 都市 9 拠点、820 名の従業員（うち契約社員 656 名）を抱える企業グループとなっている。クライアント企業は 700 社以上、常時約 300 社が稼働中である。2016 年 9 月に東証 1 部に昇格した。



イー・ガーディアン

6050 東証 1 部

<http://www.e-guardian.co.jp/ir>

2016 年 12 月 19 日 (月)

ゲームサポート分野がソーシャルサポート分野を抜き最大セグメントに

(2) 事業概要

同社の主力事業は、ソーシャルサポート事業とゲームサポート事業である。ソーシャルサポート事業は、投稿掲示板やブログ・SNSなどのコミュニティサイトなどを対象に監視・カスタマーサポート、運用、分析といった多種多様な業務を代行する。全社売上の 37.8% (2016 年 9 月期) を構成する。

ゲームサポート事業は、オンラインゲームを運営するクライアントに対し、問い合わせ対応を始めとする運営をサポートするとともに、デバッグ等の周辺業務もトラネルを中心に展開する。全社売上の 43.5% (2016 年 9 月期) を占め、通期で初めてソーシャルサポート事業を超え、最大セグメントとなった。

アド・プロセス事業は、広告審査業務を始め、広告枠管理、入稿管理、広告ライティング等の業務を提供する。全社売上の 13.2% (2016 年 9 月期) である。

上記 3 事業の事業モデルの特徴は、対応量 (件数) に応じた課金体系であり、リーズナブルな料金で専門的なサービスを受けられ、導入までのスピードが速いのも同社の特徴である。

その他事業は、人材派遣業務を行う子会社のリンクスタイルや、脆弱性診断やセキュリティ対策サービスを展開する子会社の HASH コンサルティングの業績などが含まれる。全社売上の 5.4% (2016 年 9 月期) と小さいものの、成長性は高い。

セグメント別売上高 (2016 年 9 月期通期)

(単位: 百万円)

	主な事業会社	2016 年 9 月期通期	
		実績	売上比
ソーシャルサポート	イー・ガーディアン (株) イーオペ (株)	1,442	37.8%
ゲームサポート	イー・ガーディアン (株) イーオペ (株) トラネル (株)	1,659	43.5%
アド・プロセス	イー・ガーディアン (株) イーオペ (株)	504	13.2%
その他	HASH コンサルティング (株) リンクスタイル (株) リアルレピュテーションリサーチ (株)	206	5.4%
合計		3,813	100.0%

出所: 決算短信よりフィスコ作成

業績動向

ゲームサポート事業がけん引し 2 年連続 20% 超増収・50% 超増益

(1) 2016 年 9 月期通期の業績

売上高は前期比 26.3% 増の 3,813 百万円、営業利益は同 71.2% 増の 562 百万円、経常利益は同 58.4% 増の 554 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同 82.4% 増の 350 百万円になり、過去最高の売上高と各利益を達成した。2 年連続で 20% 超増収、50% 超増益となり成長軌道は確かなものとなっている。売上増の主な要因は、ゲームサポート事業が好調だったことである。問い合わせ対応などのサポートとデバッグのセットでの提案が顧客に受け入れられた形だ。ソーシャルサポート、アドプロセス、その他業務に関しても増収傾向だった。利益増に関しても、増収により各地のセンターの稼働率が高まり原価率が下がったこと主要因だ。4 月の熊本地震で同社の熊本センターの建物の一部に被害が発生し一時業務を停止したが、人的被害はなく業務も宮崎を始めとする他のセンターに移管することで業績に与える影響は軽微だった。

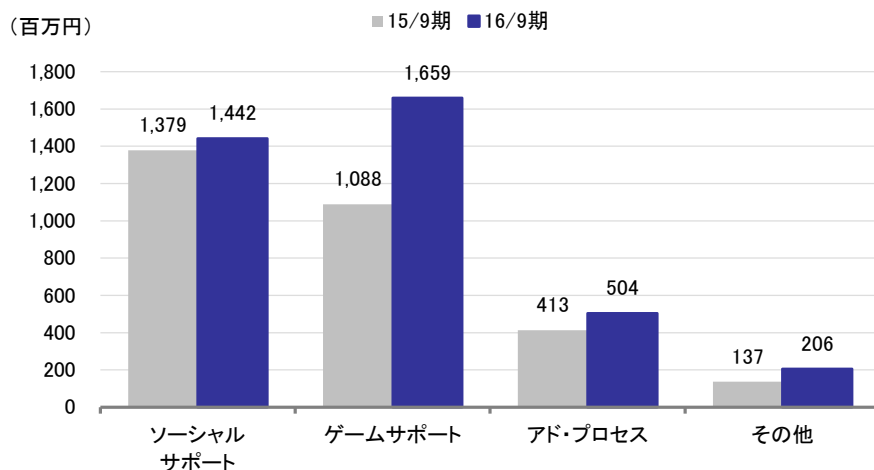
2016 年 9 月期通期業績

(単位：百万円)

	15/9 期		16/9 期		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前期比
売上高	3,018	-	3,813	-	26.3%
売上原価	2,067	68.5%	2,513	65.9%	21.6%
売上総利益	951	31.5%	1,300	34.1%	36.6%
販管費	623	20.6%	737	19.3%	18.4%
営業利益	328	10.9%	562	14.7%	71.2%
経常利益	350	11.6%	554	14.5%	58.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	192	6.4%	350	9.2%	82.4%

出所：決算短信よりフィスコ作成

セグメント別売上高



17/9 期通期も順調に業績を伸ばす予想

(2) 2017 年 9 月期の業績予想

2017 年 9 月期通期の業績予想は、売上高が前期比 17.7% 増の 4,489 百万円、営業利益が同 18.1% 増の 663 百万円、経常利益が同 24.8% 増の 692 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が前期比 32.2% 増の 463 百万円と増収増益を見込む。同社の前年度の経緯を振り返ると、期初の予想を第 2 四半期と第 3 四半期に上方修正し、さらにその予想を上回り着地した。スマホゲームの動向など業績が読みにくい面もあるため、確実に達成可能な保守的な計画を作り、上振れ分は上方修正で調整するという同社のスタイルは変わらないとみてよいだろう。

2017 年 9 月期通期業績予想

(単位：百万円)

	16/9 期		17/9 期		
	実績	対売上比	予想	対売上比	前期比
売上高	3,813	-	4,489	-	17.7%
営業利益	562	14.7%	663	14.8%	18.1%
経常利益	554	14.5%	692	15.4%	24.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	350	9.2%	463	10.3%	32.2%

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 成長戦略

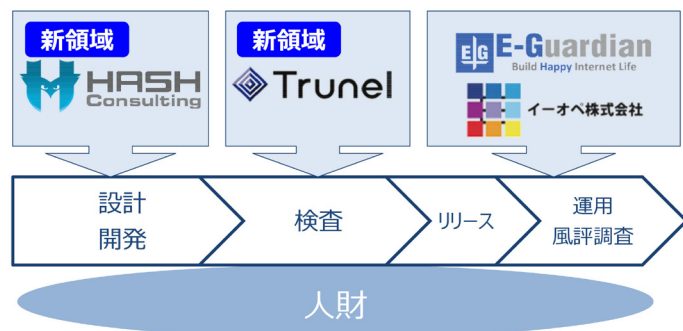
海外展開、デバッグ強化などを通じて総合ネットセキュリティ企業へのステップアップ

(1) 成長戦略と関連トピック

同社の目指す方向性は「総合ネットセキュリティ企業」である。上場後の M&A を含めたグループ化によりその体制は整備された。顧客企業の「設計・開発」プロセスに対しては HASH コンサルティング、「検査」プロセスにはトラネル、「運用・風評調査」には同社とイーオペが担当し、人材ニーズにはリンクスタイルが対応する。2016 年にはリアル・レピュテーション・リサーチ(株)、電子デバイスのデバッグに強いアイティエスがグループに加わった。各社が顧客情報を共有し、ワンストップサービスを提供することで、他社にはない強みとなる。

今後の展望

事業領域を広げ、 総合ネットセキュリティ会社へ



出所：決算説明会資料より掲載

直近の注目施策としては、ゲームサポート分野での「海外 BPO 事業展開」、その他分野での「電子デバイスのデバッグ事業参入」、同じくその他分野での「サイバーセキュリティ事業の拡大」などが挙げられる。

成長戦略およびトピック

全体	<ul style="list-style-type: none"> ▶事業領域を広げ、総合ネットセキュリティ企業へ
ソーシャルサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の大手企業、マッチング ・EC 案件に注力 ・顧客単価の向上を目指す ・ウェブ接客の強化支援「WEB コンシェルジュ」
ゲームサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・海外 BPO 事業への布石として、ベネッセグループと協業により中国とフィリピンに提携センターを設立、稼働開始 ・デバッグ事業の強化と大手案件のリプレイスによる売上獲得を狙う
アド・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・強みの審査で顧客開拓を行い、リスティング等の運用型広告の案件獲得による売上拡大を目指す
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・電子デバイスのデバッグ事業への参入 ・サイバーセキュリティ事業の拡大加速へ

出所：会社資料よりフィスコ作成

フィリピン・中国の海外拠点が順調に稼働開始

(2) 海外事業の進捗状況

海外展開は 2016 年 9 月期に大きく前進した。ベネッセグループの TMJ との協業によりフィリピンと中国に提携センターを設立し、稼働が開始された。事業内容は主にゲームサポート業務であり、最初のステップとしては、日本のゲーム会社の多言語対応を支援する。今後は海外ゲームメーカーの多言語対応や脆弱性診断業務を現地で行うことも検討する。これまで現地センターの稼働は順調に推移しており、今後の展開に期待が持てる。

海外展開への布石

ベネッセグループの TMJ 社と協業により フィリピンに提携センターを設立



第2四半期より現地スタッフ採用開始

出所：決算説明会資料より掲載

2016 年 12 月 19 日 (月)

電子デバイスのデバッグ事業を M&A で獲得

(3) デバッグ事業強化

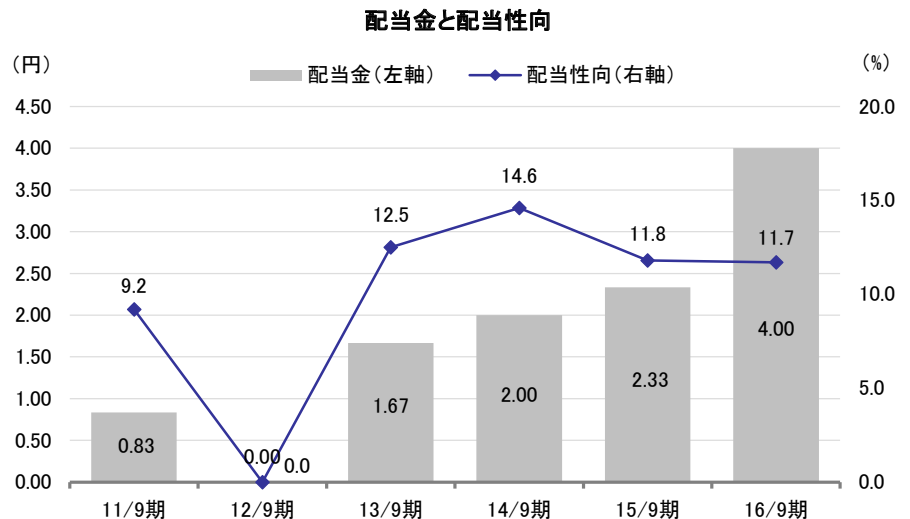
同社は 2016 年 11 月に電子デバイスのデバッグを行うアイティエスを買収することを発表した。同社グループではトラネルがスマートフォンアプリ、ゲームのデバッグ事業を行っているが、アイティエスが保有する電子デバイスに対するデバッグのノウハウや顧客層を取り込むことで、デバッグ事業をさらに強化したい考えた。

名称：(株)アイティエス
 所在地：東京都羽村市小作台二丁目 13 番地 13 ITS ビル
 売上高：357 百万円 (2015 年 9 月期)
 営業利益：-22 百万円 (2015 年 9 月期)
 取得株式数：1000 株 (100%)
 取得金額：210 百万円
 株式譲渡実行日：2017 年 1 月 1 日 (予定)

株主還元策

2016 年 9 月期は大幅な増配、株式分割で流動性向上

同社は、当面成長への投資を優先するために利益の内部留保を基本とし、想定以上の利益を得た場合に配当を行う方針である。結果として、4 年連続配当 (増配) を行っており、2016 年 9 月期には配当金が年 4 円、配当性向 11.7% となった。2017 年 9 月期の配当予想は公表していないが、利益予想どおりの着地となれば、増配となるだろう。また、2016 年 9 月期に行われた 2 回の株式分割 (2015 年 10 月 1 日付で普通株式 1 株につき 3 株の株式分割、2016 年 7 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の株式分割) により買いやすくなった。



ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ